

## 令和4年度 新居浜市総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年3月14日（木）16:00～17:30
- 2 開催場所 市庁舎3階 応接会議室
- 3 出席者 新居浜市長 石川勝行、教育委員会教育長 高橋良光  
教育委員会委員 尾藤一彦、近藤智佳、本田郁代  
企画部長 亀井利行、教育委員会事務局長 木俣浩毅  
事務局  
教育委員会事務局次長、教育力向上推進監  
社会教育課長、学校教育課長  
総合政策課長、総合政策課副課長
- 4 会議事項 (1) 新居浜市の不登校対策について  
(2) その他

### 5 会議録

企画部長	<p>それでは定刻になりましたので、ただいまから令和4年度新居浜市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>まず初めに、会議公開の取り扱いについてでございますが、本日の会議につきましては、非公開とする内容はないと考えられますので、原則通り、本日の会議を公開とし、途中、傍聴希望があれば、傍聴等を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、会議の開会にあたりまして、主催者であります石川市長からご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。新居浜市総合教育会議の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>教育委員の皆様におかれましては、平素より、本市教育行政の推進に格別のご理解・ご協力をいただいておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。</p> <p>新居浜市総合教育会議は、首長である私と、教育委員会の皆様とが、十分な</p>

	<p>意思疎通を図り、本市教育の課題や、目指すべき姿をともに共有し、連携して効果的な教育行政を推進していくために設置しているものでございます。</p> <p>本日は、本市が重点的に取り組んでおります不登校対策について、意見交換などを行っていただく予定でございますので、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶といたします。よろしく願いいたします。</p>
<p>企画部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>会議の進行でございますが、この会議は市長が主宰するという形になっておりますので、これからの進行は市長が進行いたしますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>それではこれより進行を務めさせていただきます。</p> <p>本日の協議事項は、「新居浜市の不登校対策」でございます。</p> <p>昨年の会議で委員の皆様との協議により策定いたしました新たな新居浜市教育大綱でも、児童生徒の健全育成を基本計画に掲げ、個々のニーズに応じた相談体制の整備充実を図るとともに、児童生徒に合った学びの場の提供、スクールソーシャルワーカー等の専門員の配置、連携を強化することを取り組み方針とし、小中学校における相談活動の充実や、適応指導教室における教育の充実などに取り組んでいるところでございます。</p> <p>しかしながら、不登校児童生徒数につきましては、年々増加傾向にあり、令和5年2月末の状況では219名となっており、これまでにない危機的な状況となっておりますことから、本市の重点的に講ずべき施策として、今後の不登校対策を実施するにあたり、法の規定に基づき、総合教育会議において協議を行うものでございます。</p> <p>それではまず新居浜市の不登校対策について、教育委員会事務局から説明をお願いします。</p>
<p>教育委員会事務局</p>	<p>(資料を基に説明)</p>
<p>市長</p>	<p>教育委員会事務局から説明がありましたが、ただいまの説明に関しまして、ご不明な点も含め、ご質問やご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>他市の状況も紹介してもらいたいのですが。</p>

学校教育課長	<p>他市の不登校対策の取組状況でございますが、東予管内では、適応指導教室につきましては、今治市では1か所、西条市では、旧の西条市と東予市に1か所ずつの計2か所。四国中央市では、土居、三島、川之江に1か所ずつの計3か所設置しておりますが、四国中央市につきましては、令和5年度に1か所増設予定と伺っております。</p> <p>サポートルームにつきましては、今治市、西条市、四国中央市とも県のモデル校事業で、中学校各1校にサポートルームを設置して、専任の教員が支援に当たっておりますが、今治市につきましては、今年度、モデル校以外の小学校2校、中学校2校に市独自で不登校対策支援員を配置しており、令和5年度は全中学校に配置する予定であると伺っています。以上でございます。</p>
教育長	<p>今治市の中学校数は。</p>
学校教育課長	<p>今治市は14校です。</p>
教育長	<p>スクールソーシャルワーカーはどうか。</p>
学校教育課長	<p>スクールソーシャルワーカーは今治市が4名、西条市が1名、四国中央市が2名の配置となっております。</p>
教育長	<p>中萩中学校のサポートルームの現状について、説明してもらえますか。</p>
教育委員会事務局	<p>中萩中学校のサポートルームの取組内容についてでございます。</p> <p>まず、不登校生徒の支援の充実に向けた組織体制の確立についてということで、週1回、生徒指導委員会を開催しております。</p> <p>構成は校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、各学年主任、養護教諭、ナビゲーター、これは加配教員でございますが、このメンバーで構成をしております。</p> <p>生徒一人一人の現状把握と状況、情報共有を経て、アプローチの方法やプロジェクトチームの編成等を行っております。</p> <p>サポートルーム利用生徒の保護者懇談には登校ナビゲーターも必ず同席するという体制をとっております。</p> <p>次に登校できるが教室に入れられないという生徒への支援についてです。</p> <p>昨年度、令和3年度までは、教室外の居場所を各階の相談室、あるいは保</p>

教育長	<p>健室等に設定をしておりましたが、順次サポートルームへの入室を進めております。</p> <p>サポートルーム利用まであと一歩という生徒が残り2名となりました。</p> <p>現在サポートルームが学校校舎の2階にあるため、利用生徒の登下校予定に合わせて、登校ナビゲーターが正門まで迎えに行き、入室まで利用者にとって安全安心な動線を確認しております。</p> <p>今年度新規に不登校傾向になった生徒はすべて人間関係のもつれに起因するものなので、サポートルームで気持ちをほぐしながら過ごし、関係の教職員と対話するなりして人間関係の補修に努めております。</p> <p>フリースクール等との連携についてでございますが中萩中学校では現在フリースクールに通っている生徒は在籍をしておりませんので、サポートルームとの連携というものも現在試みておりません。</p> <p>それから、自宅に引きこもっている生徒に対するICTを活用した学習支援についてでございますが、市対応のタブレットを家庭に持ち帰らせている生徒は、サポートルーム利用者の中で1年生が2名、2年生2名、3年生1名の計5名でございます。</p> <p>機器とともに学習支援のウェブサイト一覧、これは県教委、市教委が提供するものや、民間が提供するものですが、これも手渡しておりますが、各家庭での利用頻度は低く、学級担任との連絡ツールとしての機能程度しか利用されていないというのが現状でございます。</p> <p>それからその他としてスクールソーシャルワーカーとの情報交換も月1回のペースで行っております。</p> <p>校長を通じて学校からのアプローチに拒否的な家庭の情報を共有し、効果的な接触の方法を試行していただいたり、アドバイスをいただいたりというようなことでございます。</p> <p>教育委員の皆様からも質問なり意見なり、いただけたらと思いますが、私自身が一番気になっているのは、3番の不登校児童生徒分類の自宅で過ごしている150人ってところが、居場所が、先ほどタブレットを持ち帰ってもなかなか勉強を進めていくというような状況にはないってところで、やはり誰1人取り残さないっていう方針の中で居場所づくりを進めたいというのが、私の思いです。</p> <p>中萩中学校のサポートルームの成果を生かしてというのだけど、そこに先生なり見とる人がいないと、なかなかそれを具体的に生かしていくっていうことになっていけないのでそのところがですね、非常に難しい。</p> <p>中萩中学校の場合は、これまで自宅にいた子供がお友達を誘って、このサ</p>
-----	--

	<p>ポートルームに来るようになったというような話も聞いていて、かなり効果の高い施策かなという気はしておりますので。</p> <p>県のようなフル規格での設置は難しいところはあるかと思いますが、今回今治市が、全14中学校にサポートルームの今治版を開設したっていうのは、やはり同様の手応えを感じているのかなということを思っています。</p> <p>あすなろ教室も、令和2年には59人の在籍ということで、多い時には30人超える子供たちが学習室に来て、結構いっぱいのところもありました。</p> <p>例えばですけど、これは私の考えなのですが、今4人の先生で見られているあすなろ教室は文化センターのところにありますけど、我々で一つ、例えば空き家対策で、空き家で使えるような空き家について、ちょっとサロンのように子供たちが、地域の人々の支援を受けたり、指導員がついて支援したりするような、そういうあり方も、上部辺りに作ることができないかなというような、そういう思いは、私の中で持っているところです。</p> <p>ぜひ、教育委員さん、この機会に、いろいろご質問やご意見を聞かせていただけたらと思いますけど。</p>
市長	<p>私から基本的なことを確認させてもらいたいのですが、まず不登校生徒数の他市の状況、それから不登校の原因を教えてください。生徒数がどのぐらいで不登校がどれぐらいいるかというのは出ていますか。</p>
教育委員会事務局	<p>他市の情報は収集をしておりません。東予全体の数というのは教育事務所から報告はいただいているのですが、それぞれの市町でどういう状況かというのは、申し訳ありませんが現在のところ把握してございません。新居浜が多いのか、他市に比べて少ないのかいうのもわかりません。</p> <p>全国比較はしておりますが、東予管内の他市町との比較というのには行っておりません。</p>
市長	<p>もう1点ほど、不登校の原因はその報告の内訳にどのようなものがあるかわかりませんか。</p>
教育委員会事務局	<p>原因は様々、個別のケースで違いはありますが学校の報告から分析すると、学校生活に関する、あるいは人間関係に対する不安感、心理的不安というので、報告が上がっているケースが一番ございます。</p> <p>その他無気力であるとか、様々な理由の複合というケースで報告が上がっておりますけれども心理的な部分で学校生活の集団生活になかなか馴染め</p>

<p>教育長</p>	<p>ないというようなケースが多いのかなというふうには感じております。</p> <p>統計処理で出てきているのは不登校の対応ですよね。今説明したのが不安とか、情緒的混乱とか複合とかで多分、市長が聞きたいと思っているのは、それは友達のトラブルでそうなったのか、先生が怖いからいけないとか、勉強わからないからか、家庭的事情があるのか、そこらは実は統計的には、求められていないです。</p>
<p>市長</p>	<p>しかし、その原因がわからないと対応のしようもないと思うのですがどうなのでしょうか。</p>
<p>教育委員会事務局</p>	<p>個別のケースについては不登校で最初に年間30日欠席を超えた段階で、どういったきっかけでというのは報告いただいております。</p> <p>今日市長さんおっしゃられたような、人間関係のトラブル、友達同士のトラブルももちろんありますし、先生の一言がきっかけになって学校行きにくくなったというのもございます。</p> <p>あるいは、子供自身にも全くわからないというケースもあります。</p> <p>あるいは、よく小学生なんかであるのは、例えば行事になって、楽しみにしている子供さんもいらっしゃるけど、その行事に関して練習がすごく苦痛であって、秋ごろ行けなくなって運動会や音楽発表会等の行事練習がもうきっかけになって行きにくくなったというようなお子さんもいらっしゃいます。</p> <p>あるいは、何かがきっかけで長期に渡って休んでいるというわけではなくて月に3、4日ずつポツポツ休んでいて、トータルで2月、3月ぐらいで30日を超えてしまうというようなお子さんもいらっしゃいます。</p> <p>中には家庭的な養育能力に少し課題があって、昼夜逆転であったりとか、学校に行かないことに対して、保護者が十分指導ができないというようなケースなんかもあつたりします。</p> <p>様々なケースがあるので一概にこのケースが多いというのはここで申し上げられないですけども、概ね、先ほど申し上げたような理由が挙げられるのかなというふうには思います。</p>
<p>市長</p>	<p>最後に各市町村別のスクールソーシャルワーカーや、何でも相談員の人数は出ていますか。</p>
<p>学校教育</p>	<p>スクールソーシャルワーカーについては、今治市が12名、西条市が6名、</p>

課長	<p>四国中央市が4名、上島町が2名です。</p> <p>スクールカウンセラーにつきましては、各市町にどの程度の人数がいるかというのは新居浜市としては把握してございません。</p> <p>新居浜市では何でも相談員、スクールカウンセラーは5校、5名が配置されておりましてそこに接続校ということで小学校の方にも関わっていただいているというところがございます。</p> <p>あと何でも相談員は申し訳ありませんが人数は把握してございません。</p>
市長	<p>スクールソーシャルワーカーは他市に比べると非常に充実しているとは思いますが。</p>
学校教育課長	<p>スクールカウンセラーは今治市が多いかなというふうに思っております。</p>
本田委員	<p>定例の教育委員会でも、毎月不登校の児童数とか生徒数が出てきますけど、最近特に小学校の低学年の不登校生が増えているっていうことが、すごい危惧を感じるところです。</p> <p>小学校の低学年だったら、担任の先生方は、日常の勤務でいうと、本当にクラスにずっと張り付いて授業を行っているような状況です。</p> <p>まだ高学年の先生だったら空き時間があったり、中学校の先生も空き時間があったりしますが、低学年の先生はずっと子供に関わって、授業が終わるまでクラスにいるっていう状況なので、そこでもし不登校生がクラスに出た場合、やはり対応してもらい、誰か助っ人が必要な場合が多いと思います。</p> <p>特に朝来られなかったら、その場でやっぱり動いていただける方が校内にいと、担任もすごく助かるし、やはり家庭の方へ出向いて、子供とやりとり、保護者とやりとりをするっていうことが、とても貴重なことになってくると思います。</p> <p>あと何でも相談員さんやスクールカウンセラーさんは、校内に来ている子供たちのいろんな相談に乗ったり、保護者の相談に乗ったりするので結構手一杯だと思います。</p> <p>それが各学校に常駐していただいていますけど、その方をお願いしようと思ってもなかなか、現場では、その方も校内で手一杯の状態だと思います。</p> <p>それで大変あすなろ教室が、効果を出していて、中学校3年生の不登校生も大変多いですけど、あすなろ教室の方で抱えてもらって、進路相談もして、勉強の方も見ていただいているということで、進学の方も結構サポートしていただいているっていうことも、結果として伺っていますので、できれば今</p>

	<p>の、川西にありますけど、やはり上部に1教室、それから川東に1教室というような感じで子供もすぐ行けるような場所があればというのが私のすごく希望するところです。</p> <p>子供たちは学校に来るということ自体が、なかなか足が向かない。学校ということに、教室ももちろんですけど、学校自体に入ることには抵抗がある子供たちも多いと思いますので、やっぱりそこと違った、さっき教育長さんも言われましたように、空き家対策でサロンをとということでしたけど、学校と別なところで見ただけの人がいて、保護者も送っていったりできるというふうな場所があれば、やはり子供たちも学校に向く一歩手前の段階で救われるところがあるのではないかなと思いました。</p> <p>もしそれが大変難しいのであれば、やはりこの中萩中学校のサポートルームのような部屋が、校内で作られれば、大変ありがたいなと思います。</p> <p>今までは保健室がそのような状態になっていましたけど、やはりコロナの世の中になって、保健室自体がやはり子供がなかなか行きにくい。</p> <p>熱が出た子供さんがおられたとしたらその本当に養護教諭さんが困られると思います。</p> <p>以前は本当に養護教諭さんがそういった子供たちの助っ人をしていただいていた面が大変多いですけど、やはりコロナ中で、困難な状況に変わってきていると思いますので、校内にやはり、少しでも中萩中学校のようなサポートルームを少しずつ増やしていってもらえると学校の体制としても大変ありがたいのではないかなというふうに思います。以上です。</p>
尾藤委員	<p>私は先ほどの話もそうですけど、質問がありまして、自宅で過ごしている不登校の児童生徒さんっていうのは、その間、何をしているのか。また、その間にご両親のどちらかとか家庭の方がいらっしゃるのかっていうのは、わかるようでしたら教えていただきたいんですけど。</p>
教育委員会事務局	<p>152人がここでは統計として出てきておりますけれども、この152人がどうしているかということについては、各家庭に訪問に行ったりとか電話連絡をしたりしている担当が、毎月報告を上げてくれているのでその中から読み取ることができるかなと思います。</p> <p>大半のお子さんは何をするでもなく過ごしている、例えば動画を見ているとか、ネットサーフィンしているとか、ゲームをしているとか漫画を読んでいるとか、そういった過ごし方をしているお子さんが多いように受けとめられます。</p> <p>正直家庭の中での様子がわからないというような状態のお子さんもいら</p>



<p>尾藤委員</p>	<p>っしゃいます。家庭訪問をしても子供にも保護者にも会えないというようなケースも中にはありますので、明確なところはここでお答えなかなか難しいですけれども、そういったケースがあるかなというふうには思っています。</p> <p>毎月の教育委員会でも、先ほど本田先生もおっしゃられていましたけど、不登校の数値が増加しているような状況を見てまいりまして、市長と同じように、原因が何だろうというようなことも質問したこともありますけど、とにかく多様な状況がございまして、これという一つのような問題ではないだろうなということと、家庭の親御さんたちがどういうふうに考えているのだろうかというようなお話もさせていただいたのですが、やはりほとんどの親御さん、ご両親はやっぱり、子供に学校に行ってもらいたいということを考えて協力的であるという話も聞きましたので、本当にその原因っていうのがなんだろうということが見つからないまま対応策というような形ではありますけど、受け皿的なことを充実させていかなければならないのかというふうに考えております。</p> <p>先ほど本田先生の話もありましたけど、特に小学生で言いますと、小学生の児童が増えてきたということは、ずっと担任の先生がつきっきりだというようなことでございますので、何とか、あれ、休んでいるなというような時に動けるような人が配置できればいいのかなというふうに思います。</p> <p>私も自分の経験で言いますと、やっぱり3日も学校行かないとなんかもうだんだん行きにくくなってしまいます。これ30日で不登校ということになっていますが、もう3日も行かない、病気以外で3日も行かなければもうちょっと行きにくくなるっていうことは普通にあると思いますので、そういうところを見逃さずに、何かしらアクションを起こせば、少し何かの対応になるのかなと思います。</p> <p>ただそれは担任の先生にお任せするにはちょっと荷が重いのかなという感じがいたしますので、そういった早期に芽を摘めるような、動きができるような方を配置していただけたらなあとというふうに思っております。</p> <p>あと中学生に関しましては、ちょっと物理的なものといいますか、私も息子がおりまして、毎日送り出しているのを見ていますが、とにかくその荷物っていうか、かばんの中身が、かばんが重いということです。</p> <p>教科書、それから副読本とか参考資料もそうですけど、水筒であったり、昔は水を水筒で持っていくようなことはありませんでしたが、そしてICT教育でタブレットも持って帰ったり、持っていったりということで、かなりの重いかばんを背負って、学校に行っております。</p> <p>何が言いたいかと申しますと、もし少子化で、生徒児童も少ない、生徒も</p>
-------------	--

近藤委員	<p>少なくなっておりますので、すべてが自転車通学を希望者に許すことができたなら、駐輪場があれば、そういった荷物を自転車に乗せてですね、通学できるのかなというのは、そこにまた部活の道具なんかもあったりしまして、中学生の荷物は本当に多くございます。</p> <p>そういったもので少し来やすいような状況を整備してあげるというのも重要なのかなということと、あと少しずつ進んではいると思いますけど、校則につきましても、一般的にいろんなところの校則が見直されている機運が高まっておりまして、新居浜市でもそういうふうな形で進んでいるという伺っていますけど。</p> <p>例えばちょっと普通では考えられないようなことがあるとすれば、そういったものを見直して、来やすい雰囲気にするということも重要ではないかなと考えております。以上です。</p> <p>不登校の問題が実は私にはとても身近なこととして、やはり思春期の子供たちがいると学校に行きたくないと言い出す日も必ずあるわけで、その原因が、例えば学校でのトラブルだとか、ちょっとよどんでですね、理由を言わずに休みたい日がありますと、あつきたかと思えますね。</p> <p>それはなぜかというやはり保護者同士の話の中で、最初は何かよくわからないけど休みたいというか、それが続いた。</p> <p>今度、もう本当に行かなくなっちゃって、たちまち保護者は仕事に行けなくなり、どんどんストレスもたまってきて家の中で本当に親も子も疲弊していくっていうようなことを聞いていると、いつでも誰でもが学校に行きたくないと言い出してそこからいろんな負のサイクルが始まっていくのではないかっていうことを危惧するような状況になっていきます。</p> <p>今あすなる教室はとても保護者の方から信頼されていて、先生方が非常に頑張ってくださっているおかげで、行けなかった子が行けるようになったとか、進学しようという意欲を持つようになったとかいろいろを聞いてですね、本田先生もおっしゃっていましたが、あすなる教室をもっとふやしていただけたらいいなっていうのを思っていました。</p> <p>あと、教育長がおっしゃっていたような空き家を活用したサロンとかですね、そこに行けば、サポートしてくれる方がいらっしゃるっていう、そういう場所が必要だと私は思っています。</p> <p>ですが、なかなかその場所が遠い時に子供たちが自分たちで歩いていける自転車で行ける範囲に、何かサポートしてくれる場所があるとなるとやはり学校かなと。</p> <p>また私事ですが私の子供が、学校が嫌だと言い始めた時に、毎日放課後で</p>
------	---

教育長	<p>すね、保健室の先生にお話を聞いてもらったり、先生方にいろいろな状況を聞いたりということで、何度か学校へ足を運ぶこともありました。</p> <p>やはり学校っていうのは地域の方にとっても、保護者にとっても非常に身近な場所ですし、そこが安全で安心であるっていうことが非常に重要だと思っています。</p> <p>そこへ行けないっていう子供たちがいるっていうのは本当にかわいそうなことだと思っているので、サポートルームが、子供たちにとって信頼を得られる場所になれば、例えば制服を着てこなくてもいいけどサポートルームにはちょっと1日1回行ってみようとかなですね。</p> <p>先ほど尾藤委員のお話にありましたけれども、荷物が重たいのだったら荷物持って行かなくてもいいけど、サポートルームに行ってみたらどうかなど、そこには先生だけではなくて、地域の方がいらして、学校とは関係ないことをやってもいいじゃないかなと。そういうところで誰かといつも繋がっている、そこに行けば必ず誰かがいる、安心できる、それがサポートルームの役割かなと思うとどこでもいいですが、まずは学校にあると良いのではないかなというふうに思っています。</p> <p>あとこのサポートルームというか不登校のことって結局保護者も疲弊しますが、教職員の先生、皆さんも疲弊するのではと思います。</p> <p>先ほど小学校の話がありましたが、子供たちをずっと見ていないといけない、だけど、不登校の子供が出たら、その子のことも考えなくちゃいけない。</p> <p>中学校の先生方も空き時間があるとはいえ、たくさんの子供たちを見ているわけですから、今ただでさえ先生の数が少ない状況で、これ以上先生方が、考えなくてはいけないことが増えて、子供たちのために何かやろうとしているけれども結局自分がつぶれていく、その状況になると、やはり困るのは現場の方々、そして子供たちだと思います。</p> <p>ですから、良いサイクルをまわしていくためにも何かしら手を打たなくちゃいけない。ここで今やらなかったら、新居浜市としては本当に子供の将来がないっていうことは、市の将来がないということに繋がっていくと思うので、手は打って欲しいなという気がしています。以上です。</p> <p>やっぱり居場所を確保していくために、学校の先生は学校の先生で、私も担任をしている時に不登校の子も担任しましたので、ある日突然不登校が始まりますよね、きっかけは多分ありますけど。</p> <p>それはきっかけです。そうになってしまうと、なかなか難しい。</p> <p>難しい中で、復帰に向けての道のりを考えると、やっぱり、居場所が必要というのは、これまでの経験でも実感しているところです。</p>
-----	---

<p>市長</p>	<p>休み始めると、本当の不登校になってしまいます。最初はそうじゃなくても、尾藤委員が言った通りで、やっぱり教育行政としてできることと、学校ができることは、分けて考えるべきと思っています。</p> <p>学校の先生は、3日まで。休み始めて3日までの間に家庭訪問して話を聞いたりとか、あるいは、学校に配置するスクールカウンセラー、何でも相談員とかあるいは先生方のチームで対応したりとか、それは努力しておりますけど。</p> <p>あすなる教室の設置であったり、サポートルームを設置してそこにいろいろな人に入ってもらったりという部分については、やはり行政の力がないとできない部分が多いと思いますので。</p> <p>そこについてはぜひ市長さんのご配慮をいただけたらありがたいかなというのは、私の切なる思いです。</p> <p>新居浜市以外もそうですけど、全国的に不登校が拡大していて、中学生の場合5%が大体不登校です。おそらく日本はもう5%を超えたのかなと思いますけど。</p> <p>数にしたら200人。それから、この不登校以外にも、様々な原因で来られてないお子さんがいます。これ全部入れると300人ぐらいですけど。</p> <p>やっぱり学校に行けない子供を何とか学校に近づけるための居場所を用意するっていうのは、もう何としても進めていきたいというふうに思っています。中萩は不登校の数がまあまあ出はいますけど、これは不登校の場合30日を超えると、もう、年度末までその1人はずっと1人として計上されるので、行くようになったから不登校じゃないですっていう考え方ではないので。</p> <p>中萩の場合は、不登校になりかけた子がサポートルームで持ちこたえて教室復帰を果たしたり、さっきも言いましたけど、ずっと家にいてゲームしたり、テレビ見て過ごすだけだった子が、来るようになって1人が来だしたらその子が次の子を誘ってくるというような好循環も見られていますし、サポートルームについては、ぜひ、他の学校にも拡大して取り組みをしたいというのは、私の思いです。</p> <p>ぜひご理解とご支援をいただければありがたい。それと尾藤委員が言われたように、自転車とかですね、そういうところも、拡大できれば、これにはちょっと工事も伴いますので、また事務局の方で、どれぐらい必要かというのは検討してもらいたいと思います。</p> <p>今聞いて感じたことをちょっと申し上げますけれども、最初にやっぱり感じたのは何かの原因があるはずですからその原因をまず把握して、要は居場</p>
-----------	--

	<p>所を作るというのはわかりますけどそれは、次のステップで、まず原因を掴んでそれを解消するのが大事じゃないかと。</p> <p>そのためには学校が大変であると思いますけど私は家庭だと思います。親とご両親とよく話をする親はおそらく原因はわかっているはずです。</p> <p>学校の先生に怒られた、学校の先生が何したとか、友達と合わないとか、勉強が嫌いだとか、もうとにかく病気で行けないとか、いろいろな原因があると思いますので、そこを把握した上でそれにどう対応していくかいうことをしないと、居場所づくりをしてもいいですが、どんどん増えるだけになってしまうような気がします。</p> <p>やっぱり原因を突き止めてまずそれについてどう対応するかというのが、まず一番で、尾藤委員が言ったように、その原因を掴んだら早く対応する。一度見逃してしまうとずるずるといってしまうのではないかと、今のお話を聞いて感じました。</p> <p>それでもどうしようもない人は、居場所を作らないといけないと思うのですけれども。そうじゃなくて、私の孫なんかを見てもやっぱり行きたくないという日が何日かありました。それはやっぱり結局、原因があるというのは、結果的にはわかりましたので。親がちゃんと見ていればわかるのではないかなという。そこはどうでしょうか。</p>
教育委員会事務局	<p>そういうケースもあります。</p>
市長	<p>そうじゃないケースはどういうケースですか。</p>
教育委員会事務局	<p>子供の不安傾向が、今までになかったような不安傾向。小学生だったら母子分離不安。親と離れることができないとか、これはですね今年度特に顕著な事例です。</p> <p>それから中学生も、例えば私の知っている人も、子供自身が、なぜ自分が行けないかわからないけど行けなくなったってということで、市長さんが言われるように、友達と折り合い悪くっていじめられたり、いろいろなことをされたりするのでそれが嫌っていう、こういう事例はこれいじめっていう事例ですよ。</p> <p>いじめを解消したら、いけるようにもなってというのは、これは原因ときっかけがはっきりしています。</p> <p>それから、自己肯定感が低いお子さん、自分は勉強が苦手だ、容姿が良くないとか、そういう子については、励まししながら、スクールカウンセラーと</p>

	<p>か、あと何でも相談員、担任の先生も関わったり、学年団が関わったりして支援しながらやっていく。</p> <p>そういう原因が、阻害している原因がはっきりしている部分については、学校の方は対応していますけど。子供自身もわからない、でも不安だというケースもかなりたくさんあります。</p> <p>だから、いじめられたから行けないとかいうような事例は割とクリアできやすいのかなあとは思いますけど。</p>
市長	<p>この 219 名の中にそのような事例がどれだけいるのかというのは知りたいですけど、そこが数字にはなっていないから、まずそれを掴まないと対応のしようがないのではないかと。大抵はコミュニケーションがなかなか取れなくなってというのが多いかと思いますが。</p> <p>それでまず早く見つけて早く対応するというのがまずは大事で、そのために人が足りないというのならそれは、人をその専門のカウンセラーとか、そこを増やすのはあるかと思えます。</p>
教育長	<p>あすなろ教室が結構成果を出してくれています。あすなろに通っていた卒業生はほとんど、次の進学へ行きます。</p>
市長	<p>結局学校へは復帰しないのですか。</p>
教育長	<p>いや、そんなことないです。あすなろで復帰している数がありますよ。</p> <p>例えば学校に復帰した数でいくと、平成30年から3人、5人、6人、10人、10人と学校復帰者が増えています。</p> <p>あすなろの登録者数を見ていただいたら、これは登録するだけなので登録はして1回来たけども来なくなったという子もいると思いますけど。だから10人も学校復帰果たすっていうのは、これは結構なものです。</p> <p>あすなろと学校を併用している子もいますので、週のうち何日かはあすなろに来て何日かは学校に行くと。これは結構成果を出しているほうだと私は思っています。</p>
市長	<p>あすなろ教室には市内全部から来ているのですか。</p>
教育長	<p>そうです。</p>
市長	<p>来るのはどうやって来ているのですか。</p>

教育長	中学生は自分の力です。自転車でも何でも遠いところは大生院からも来ます。来ているうちに元気になって強くなってたくましくなって、次の高校の進学に繋がったりもします。小学生は親が連れてくるという原則です。
市長	子供1人では来ることはできないのであれば、そこを拡充することも一つですか。
教育長	これは要望が結構いろんなところからあり、遠いので上部にも作ってほしい、川東にも作ってほしいという声はあります。 そこで救えるお子さんはそこで救いたいというのと、その前ですね。今回の中萩で引きこもっていた子たちがサポートルームに帰ることができたので、それについては、有効かなっていう気はします。 多様な選択肢を用意してあげないと、昔と違って、本当に昔と違って、原因も様々なので。
市長	サポートルームというのは学校の人じゃないといけないのですか。
教育委員会事務局	ここのナビゲーターというのは、今の中身で言うと去年まで校長をしていた人が再任用として、子供の指導をしています。それからもう1人がICTの支援をしています。
市長	どうして10分の10の事業費が減ったのですか。
教育委員会事務局	これは県の補助で人件費とかでないです。やはり消耗品、備品とかそういう部類で、県の補助額が減ったので、減額になったということです。 教員は県費で、県が配置していますけど、初年度は初期投資のパソコンとか、様々な備品がありましたが、来年度は初期投資が終わったので減っています。
市長	先生は本来1人配置ですか。
教育委員会事務局	学校ナビゲーターとICT支援員、これがセットで全部県費です。
市長	ICT支援員は違うのでは。

教育委員会事務局	<p>いや、これもサポートルームの一つです。</p> <p>県のねらいは、さっき言った新居浜でいう 150 人を救うためには、ICTを活用して来られない方にも支援を行き届かしたいということで、ICT支援員を配置しています。</p>
市長	<p>この事業は令和5年で終わりですか。</p>
教育委員会事務局	<p>そうです。県も、続けてやれる体力がないみたいと言われております。</p> <p>この学校ナビゲーター、これも本来はサポートルームの不登校対策で県がつけているのですが、今治市が6時間の日雇いで14の中学校に全部入っています。</p>
市長	<p>さっき言った、他市に比べてどんな人数なのか。それから原因が何なのか、家庭でのどういうふうな生活か、やっぱり実態をもう少し分析し、どういう対応をすべきかというのは考えるべきじゃないのかと思いますけど、いかがでございましょうか。事務局はぜひ分析をしてください。</p>
尾藤委員	<p>私も市長が言われるようにでも両面からは必要だろうと思います。これっていう決定打みたいなものがない中で、現状で考えるとどうしても入口と出口で両方押さえていかないといけないと思います。</p> <p>特に、この3年ぐらいはコロナ禍で、やはり子供が子供らしい生活を送れていなかった状況があります。</p> <p>マスクもそうですし、今でも昼食の時間に黙食をしているような形で、ただでさえコミュニケーションが不足しますし、人の表情も見えなくなり、まだ3密だ、3密を避けなさいというようなことで、子供たちの遊びの場ももしかしたらいくつかは機会が失われているような状況がずっと続いてきた部分が、やっぱり小学校の低学年の児童にはかなり影響を及ぼしていることも考えられると思いますので、学校としてはコロナ対策もしながら、子供らしく遊んだり勉強できたりするような環境を少しでも進めていただきたいなと思っております。</p> <p>ただ本当に全国的にも、やっぱり不登校が増えてきているということは間違いないので、そこら辺に対してもやっぱり何かしら考えていく必要があるのかなと思いますので、よろしくお願いします。</p>
市長	<p>他にございませんか。</p>



<p>近藤委員</p>	<p>お金を出していただきたいということを言う以上は、もちろん分析とか原因の追及とかが必要だなというふうに思います。尾藤委員もおっしゃるように入口出口をというお話でしたけれども、家庭環境も、本当に今様々で、多分学校としてもなかなかこう掴みきれない部分があるのではないかと思いますので、そのためにもスクールソーシャルワーカーさんなどいろんな方が必要だなというふうに感じていますので、本当に繰り返しになりますが何かしら手を打つ、原因を追究している間にもどんどんもっとひどくなっていくってというようなことがないようにしていけたらなと思っています。以上です。</p>
<p>本田委員</p>	<p>家庭と話すということですけど、子供も学校に行けなくなったきっかけというのは多分何かしらあるだろうと思います。だけど、それで行けなくなってから、何を引きずっているのかと言われるとそうじゃなく、やっぱり生活が怠惰になったりとかしながら、学校へ足が遠のくってというふうな状況で、いろんな複合的な要素がたくさん絡まってくると思います。</p> <p>それとやっぱり親御さん自体が、子供をどうしてもやっぱり学校に行かせて、やはり将来を社会にちゃんとつなげるようなように育てていこうと思われている保護者の方は多分、いろんな相談機関にも相談に行かれたり、学校とも連絡を取ったりして、大変熱心に相談されると思いますけど、そこまで考えが及んでいないご家庭はやはりもう門戸を閉ざしてしまって、いくら外からノックをしても答えないし、子供と一緒に、もう引きこもってしまうというふうな状況も多々あります。</p> <p>だから、そこをこじ開けるにはなかなか、子供と家庭も対応していかないといけないということになりますと、やはり学校だけではなかなか難しい面が出てきまして、やはり家庭のその大人を、どういうふうにそれではいけないのではないかという相談を持ちかけるような、やっぱり支援というか、そういうものが大変難しいということにもなりますので、その辺のところもやはりプラスアルファの尽力というか、人がいてくださったら、助かるなっていう気もします。</p> <p>なかなかそういった対応の面で、また教室のことやサポートルームことを考えていただければありがたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>スクールソーシャルワーカーを入れていただいて、これは家庭的な支援が必要な場合、離婚があったりとか、親が病弱だったり、大きな変化があったような場合にはスクールソーシャルワーカーが様々な福祉のサービス</p>

	<p>に繋いでくれたりして、こういうケースの場合はそういうスクールソーシャルワーカーが支援していく。</p> <p>それから、子供さん自身が発達障害等を持っていたり、コミュニケーションに難があったりというような場合は、今のところ発達支援課がケース会議等をやっているので、子供が、人間関係で困っている部分を支援しています。</p> <p>それとさっきいじめとかがあつてっていう場合がありますけど、それはいわゆる教育的なアプローチで、学校の先生が対応していくべきと。</p> <p>それと、もう一つ、本人がどうしていけなくなったかわからないけどいけないとか、こういう部分は、スクールカウンセラーでこれも心理職で専門職に繋いで、学校も対応はしています。</p> <p>だから、ちょっと数はひろっていないのでこん今度ひろうようにしますが、それぞれ学校は、それぞれの状況に基づいて、それぞれつなぐ人、それから対応する人っていうのを一応考えて相談はしているっていうことで、3日までにはとにかく支援する、休むようになって3日も過ぎてということにはしないようには、これは学校の先生に、冊子を教職員全員に配ってやっていますので。</p> <p>そのアプローチっていうのはできますけど、なかなか1回休み始めると戻していくのにもものすごく難しさを感じているのがこの不登校問題の難しいところです。</p>
市長	<p>ありがとうございます。もう1点確認ですが、専門人材はいろいろありますけど、不登校問題に家庭との間に入るのはスクールソーシャルワーカーですか。</p>
教育委員会事務局	<p>そうです。学校のソーシャルワーカーやスクールソーシャルワーカーというのは、家庭の中にどっぷり入って、家庭に行って、家庭で困っている諸問題を解決するために、福祉の専門職として、例えば朝子供を連れていけないというところには、ファミリーサポートを紹介するなど、家庭の状況を、福祉的にサポートする専門家がスクールソーシャルワーカー。</p> <p>子供が友達のことなどで悩んでいるなど、そういう気持ちの面の解決をしてくれるのが、スクールカウンセラーです。スクールカウンセラーは出向いていきませんので、学校に相談室にいます。</p>
市長	<p>ハート何でも相談員の要件は何ですか。</p>

<p>教育委員会事務局</p>	<p>スクールカウンセラーは資格職です。だから臨床心理士。専門職なので、心理学の専門家です。</p> <p>ハート何でも相談員は、誰でもできて資格は持ってないです。この方々は、お話聞いて、寄り添ってあげたりとか、なっているのが学校の元先生だったり、民生委員をやっている人だったりそういう人です。だから給料も全然違います。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは私からお願いしておくのは現場の状況、原因の究明をどういうふうに行っているか、それとやっぱり教育長、尾藤委員も言われた3日以内の早期対応が一番であると思いますので。</p> <p>家庭訪問もして、その原因を追究して対応を検討することはぜひやっていただきたいなと思います。</p> <p>その原因等について教えていただいた結果、今後どうしていくか、サポートルームを増やすのか、そのあたりはまた事務局で整理をしていただいて、その時にさっき言ったようにハート何でも相談員、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、サポートルームを設置する各市の状況等を一覧表にしてもらえたらと思います。不登校の数や比率がどうなっているかについてもお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>他にございませんか。なければ、本日はこれにて閉会いたします。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>